

インフォーマル経済に対する労働安全衛生の拡充に向けて — 第 18 回世界労働安全衛生会議によせて

(第 18 回世界労働安全衛生会議に際しての広報活動の一環として、ILO 広報局によって行われた 2008 年 6 月 17 日付インタビューの英語訳。原文は ILO のホームページで閲覧できます。

http://www.ilo.org/global/About_the_ILO/Media_and_public_information/Feature_stories/lang-en/WCMS_094253/index.htm)

アジアの労働力の 60% 以上である 10 億人以上が、いまだに社会保障をほとんど、あるいは全く受けられない状況でインフォーマル経済に従事しています。現状では、インフォーマル経済の労働者や小規模事業主は、自発的に安全衛生の向上に務めているのが通常です。しかし実質的な支援はいまだ必要とされています。ILO オンラインでは、川上剛 ILO 東アジア準地域事務所労働安全衛生上級専門家に話を伺いました。

ILO オンライン: アジアにおけるインフォーマル経済の労働者の安全衛生の現状とはどのようなものですか?

川上: アジアのインフォーマル経済は、すべての経済部門 - 農業、工業、サービス業に広く及んでいます。どの部門も、個々に直面する安全衛生問題改善のため実用的な支援策を求めています。労働者や自営業者は、しばしば基準を満たしていない労働条件の下で働き、適切な安全衛生に関する訓練や情報もなく、職場で様々な危険にさらされています。国内の労働法を見ても、必ずインフォーマル経済も視野に含められているとはいえません。

ILO オンライン: 労働安全衛生 (OSH) プログラムで早急に取り組むべき優先課題は何でしょうか?

川上: われわれは、実用的で使いやすく、地域レベルで活用できる対策を必要としています。例えば優良事例に基づく低コスト改善策により、アジアの小規模職場でのコスト問題を乗り切ることができました。また多くの労働者が活発に参加できたことで、結果的に具体的な向上が見られました。目に見える教材を使用することは、われわれのプログラムに弾みをつける結果となりました。例えばイラスト入りのチェックリストや、OSH の改善事例を示した写真のようなものです。

ILO オンライン: プログラムの成功例をいくつか挙げていただけますか?

川上: カンボジアの 4 つの都市で全地域を対象とした、4 つのトレーナー養成コースを行いました。この参加型 OSH ネットワークは全国的に絶えず拡大しました。この拡大の背景には、トレーニングプログラムの実践的な説明会を行い、労働者に OSH の問題に対する低コストの改善策を提供したことにあります。2008 年 4 月時点で、3000 人以上のインフォーマル経済の労働者が、養成された参加型トレーナーネットワークによる訓練を受けました。

これらの参加型トレーニング手法は、今年からスタートするカンボジアにおける第一次 OSH 基本計画 (2008 年から 2011 年) にも含まれています。これまでに築いた経験と達成については、他の ASEAN 諸国とも広く共有され、OSH に関する国際会議やジャーナルなどでも取り上げられてきました。

ILO オンライン: どのようにして、インフォーマル経済の労働者や自営業者に広めていくことができるのですか?

川上:地域の職場やコミュニティーは、様々な人のネットワークを持っています。地域の小規模事業主が、彼らの考えや情報をお互いに交換し、ビジネス向上を目指した団体を形成することはよくあります。地域の組合リーダーや組合員は、しばしば草の根レベルで労働者とコミュニケーションを取っており、彼らの労働条件改善に向けたインフォーマル経済職場の支援策をよく分っています。自営業者らは、労働環境の改善を求めて独自の協力システムを築いています。

ILO オンライン:インフォーマル経済においては地元での OSH アプローチの重要性を強調されていますね。

川上:地元の調整チームは良い選択です。彼らは、政府高官、労働監督官、医療従事者、事業者団体、労働者団体、コミュニティーリーダー、地元 NGO など豊富な人的資源で構成されていますから。彼らは与えられた地域で、ターゲットとなるグループの調査を早急に行うことができます。関連の安全衛生チェックリストを使用して労働者、使用者への直接インタビューを行う職場訪問の形をとっています。

次の段階として、目標とするグループの具体的な需要に見合った参加型トレーニングプログラムを計画します。トリノにある ILO トレーニングセンターは、我々の活動をあらゆる面で支援をしてくれます。国内政策レベルでの支援もまた明らかにインフォーマル経済の OSH プログラムを成功へと導く鍵となっています。ILO の「職業上の安全及び健康促進枠組み」条約(第 187 号、2006 年)は、インフォーマル経済の OSH 改善に向けた国内政策を進める上で信頼できる指針を与えています。

ILO オンライン:今年韓国で行われる第 18 回世界労働安全衛生会議に対しては、どのようなことを期待していますか？

川上:世界労働安全衛生会議は、安全、健康で、生産的な職場を達成し、インフォーマル経済で働く労働者を含む全ての人に行き渡らせるための知識と経験を共有する理想的なフォーラムです。労働安全衛生を国家計画に優先的に取り入れることを確実にし、国レベルで予防のための安全衛生の文化を構築、維持することにより、ハイレベルな職場の労働安全衛生推進に役立っています。これを達成するためには、われわれが OSH を社会全体の責任であることに気付き、政労使を中心とした社会全体がこの目標達成に貢献しなければなりません。

第 18 回世界労働安全衛生会議は、2008 年 6 月 29 日から 7 月 2 日にかけて韓国ソウルで行われます。労働安全衛生分野の国際会議としては最大規模となります。会議開催の目的は、情報交換や優良事例の紹介を通して、健康の促進と職場での事故や病気の予防促進に貢献するためにあります。3000 名以上の政策決定者、上級経営者、労働安全衛生分野の専門家、労使代表、社会保障専門家らが参加します。3 年に 1 度行われるこの会議は、ILO と国際社会保障協会 (ISSA) の共催によるものです。第 18 回世界会議は韓国産業安全衛生公団 (KOSHA) が受入団体となっています。